

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

尾道市立日比崎小学校 書写教育の取り組み

尾道市立日比崎小学校

1 はじめに

〈学校の概要〉

本校は、尾道市の中心部に位置し、「夢や目標をもち、ともに高め合う子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、地域とのつながりを大切にしながら、一人一人が自らの力で学びを深め、表現する喜びを感じられる教育活動を推進しています。

2 書写教育の具体的な取組

(1) 尾道市の取組について

尾道市では児童の創造的な表現力を育むために、平成17年度から「尾道市小中学校芸術祭コンクール(12月)」を行ってきており、本年度で21回目になります。本校の児童も日頃の書写学習の成果を活かし、多くの作品を出品しています。作品は、用紙いっぱい力強く、のびのびとして文字で表現されており、来場者からも高い評価をいただいております。児童自身も「自分の作品をみてもらいたい」「もっと上手になりたい」「次はこの字を工夫したい」といった意欲をさらに高めています。



【展示の様子】

(2) 本校の学習活動について

本校では、「時を守る、場を清める、礼を正す」という教育者・哲学者の森信三先生の言葉を「学びの風土作り」の基盤とし教育活動を進めてきています。書写の学習は「礼を正す」などこの三原則と深くつながりがあります。「正しく・美しく・心を込めて書く力」を育みながら豊かな心の育成を目指し指導を行っています。

また、平成26年度から特別非常勤講師として沖田直美先生(書道家)を年間約30時間お招きし、主に4年生から6年生までの児童に対してきめ細やかな指導を行っています。筆の扱い方、姿勢、文字の形の整え方など、基本から丁寧に教えていただき、また、個々の児童の伸びをしっかり評価し声をかけて下さる指導を通して児童は書くことへの関心・意欲の向上と自信を深めています。

(3) 授業研究について

令和7年9月24日には「尾道小学校教育研究会書写部会」の授業研究を本校で実施しました。この日は、広島大学非常勤講師 藤井弘治先生をお招きし、5年生の授業を公開しました。児童が「筆順」の大切さを意識し自分の筆づかいを振り返りながら「よりよい字形とは何か」を考える姿が見られました。研究協議会では、児童の意欲を高める指導の工夫や、学習評価の在り方について活発な意見交換が行われ、今後の授業改善に向けて大変有意義な機会となりました。



【授業の様子】

3 おわりに

この度は、文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。この受賞は、学校としての取り組みだけでなく、講師の先生方や保護者の方のご協力があったからこそだと感じております。

今後も、沖田先生をはじめ地域・専門家との連携を深めながら、児童一人ひとりが書写を通して自己表現の楽しさを味わえる授業づくりを進めていきます。「文字を通して心を伝える」ことの大切さを子どもたちに実感させ、書く力とともに豊かな感性を育みよりよい児童の成長に結びつけていきます。



【授業を通しての変容】

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

桐蔭学園中等教育学校の取り組み

桐蔭学園中等教育学校
山本千賀子

1 はじめに

本校は神奈川県横浜市にある、6年一貫教育の学校です。本校が目指しているのは「自ら考え判断し行動できる子どもたち」の育成です。これは、一人ひとりが多様な変化の激しい社会にしっかりと適応し、地に足をつけ、自らの人生を切り拓いていけるための自立的学習能力を育てることを意味します。この姿勢は、知識偏重から思考力重視へと変わっていく今後の大学入試、さらには、大学・大学院等の高等教育を終えた後、社会の中心で活躍するための力を育てることにもつながります。

「磨かれざる原石」として桐蔭学園の門をくぐってきた生徒の潜在する能力を引き出し、次の時代を担う人材を育てるべく、日々の教育活動に取り組んでいます。

2 書に関する取り組み

本校では、さまざまな分野で「本物の良さ」に触れさせることを大切にしています。1年生から3年生までの書写、4年生（高校1年生に相当）の書道選択者の書道の授業が、書道室で行われています。和室の畳の上で墨を磨り、心を落ち着けて作品と向き合うことで、書写、書道の力だけではなく生徒一人一人の人間性を育むことを目標に据えています。

他の学習と同様に書写、書道においても「主体的に学ぶ」ことが求められていますが、それは一人一人が自らの課題を把握し、その解決に向けて自分なりの目標を決めて、解決方法を選択しながら課題を解決していくことで、その力を養うことができると考えています。

学習の第一段階では生徒が書いた文字を自分で添削して課題を見付け、その課題に沿った目標を設定します。次に第二段階では、課題解決に向けて練習方法を考え、試行錯誤のちに作品を完成させるという学習過程を設けています。自ら主体的に学ぶことによって、書写、書道の力をつけるだけではなく、目標を達成し、上達した喜びを味わうことができます。また、自分の作品を自分の意図する通りにできるという経験が、さらに学びたいという意欲につながっていくと考えます。今後も、書を学ぶことで書の楽しさを知るだけではなく、生徒の心情、さらには問題解決能力、社会で生き抜く力を育てていきたいと考えています。

3 おわりに

この度は文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。生徒たちの日頃の学習の成果を表彰いただけましたことに心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、生徒たちとともに、書写、書道教育の充実に取り組んでいきたいと思っております。最後になりましたが、審査員の先生方、大会ご関係の方々から心から御礼申し上げますとともに、この展覧会の益々のご盛会をお祈り申し上げます。



文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

本校における図画工作科の取り組み

南風原町立津嘉山小学校
照屋由香利・大城香苗

1 はじめに

本校は沖縄県本島南部・南風原町の南西部にある自然に恵まれた丘上に位置し、学校からは校区が一望できる素晴らしい環境にあります。昭和50年に南風原小学校から分離・開校し、本年度で50周年を迎えます。令和7年度は、42学級、990名の児童が在籍しており、学校の重点目標である『目的意識を持ち、主体的に学び、ねばり強くやり抜く子の育成』に向けた教育活動に取り組んでいます。

2 図画工作の取り組み

(1) 題材選びについて

- ・授業の中でクレヨンの技法と絵の具の使い方を指導する時間を設けた。
- ・学習したクレヨンの技法を用いて、色を重ねたり、こすったりしながら思い思いの表現を工夫し、作品を制作することができた。

(2) 構図について

- ・生活のなかにある形に注目して、太陽の形を使って表現する活動を行った。
- ・絵の具の色をスポンジでスタンプする活動を行い、自分のイメージにあう色で表現できるようにしている。
- ・タブレット（お絵かきパレット）を活用して、自分の描きたい太陽のイメージ図を作成できるようにした。

(3) 色づくり

- ・太陽のイメージから色を引き出し、「元気いっぱい→明るい→黄色」という風に自分のイメージに合う色を決めていった。
- ・絵の具の使い方場面では、水の量で色が変えること、虹の絵を基に色のグラデーションをすることで色の混ぜかたや絵の具の配分の工夫について指導した。
- ・水の量によって絵の持つ雰囲気が変わることを学べるようにした。

(4) 鑑賞について

- ・自分の作品の紹介と、頑張ったこと、友達作品の良いところを見つけ、今後の表現に生かすことができようようにした。

3 おわりに

この度は、伝統ある展覧会で文部科学大臣賞をいただき、大変嬉しく思います。児童の作品の発表の場として、積極的な参加を呼びかけました。賞状をいただけることが、児童の自信につながっています。また、今後も全国書画展覧会への応募を続け、1人でも多くも児童が励みとなるよう支援し続けたいです。

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

本校における美術科の取り組み

茨城県立鉾田第一高等学校附属中学校
小 沼 宏 美

1 はじめに

本校は、大正11年（1922年）に茨城県下7番目の旧制中学校として創立し103年を迎える学校である。附属中学校は、令和2年度に開校し、今年度、第一期生が高校3年次となり卒業となる。ローカルとグローバルの双方の視点を持ち、未来を力強く生きる「骨太のグローバルリーダー」の育成を目指しており、確かな知識と課題解決力を養うため、授業だけでなく、探究活動や行事、部活動など生徒の活躍の場を数多く創出し、文武不岐を校風としている。

2 本校の取り組み

本校では、併設型中高一貫校の特性を活かし、高等学校との連携を密にすることにより、個性や能力の一層の伸張を図る進路支援を令和5年度から令和7年度までの3か年の計画で「授業改善推進プロジェクト」として実施している。また、高等学校へ進学した内進生の状況を分析し、中学生の基礎基本の定着や上位層への指導等の枠組みを改善することが課題である。

①併設型中高一貫校の強み

- ・異年齢の生徒作品の鑑賞と高校美術部との連携

高校生の全国のコンクールで入賞した作品や卒業生からの寄贈の大きな作品を廊下や昇降口に掲示しており、普段の生活の中でよい作品を鑑賞している。

- ・文化祭などの行事を活かした交流

毎年行われる文化祭では、出し物や装飾、宣伝用の動画制作などで中学生高校生問わず、しのぎを削っている。文化祭などの文化的な行事が多く、互いに切磋琢磨できる環境がある。

②一人一人が輝ける場の設定

- ・図工から美術へのステップアップ、美術嫌いを作らない

気が付いたら美術になっていた、というくらいフラットな移行を目指している。造形遊びのように素材を鑑賞、色の実験など中学美術の基礎・基本を身近な題材に落とし込んで学習している。

- ・相互鑑賞会

作品完成後、互いに見せ合い評価し合い、認め合う活動を通して鑑賞の目を養っている。

- ・コンクールへの応募

授業や部活動で描いた作品を、様々なコンクールに出品している。認められる嬉しさがまた描きたいという動機につながっている。

3 おわりに

この度は、画の部 中学校部門 文部科学大臣賞（団体の部）をいただきありがとうございました。毎年夏休みを利用して「自分の好きなものを一枚描いてくる」という課題を出しています。中学生の多感な時期の夏休みは、どんな刺激を受けて、感じて、成長してくるか、持ち寄った作品をお互いに見せ合う生徒たちの姿がまぶしく、よい機会をいただいていると感じておりました。さらに賞をいただけたことに生徒・教員みな感動しております。これからも生徒のよい成長を願って、全国書画展へ応募し続けたいと思います。

